

TENOHASI

てのはし / 地球と隣のはっぴい空間池袋 会報誌 第46号

2025年3月23日発行



アンケート調査の様子

- P2 炊き出し利用者の実態調査アンケート 結果報告
- P10 相談員田中のとある一週間
- P11 当事者インタビュー 「ロサンゼルスから TENOHASI のシェルターへ」
- P15 会計報告
- P16 新規会社設立と経緯
- P19 ご寄付ありがとうございました

炊き出し利用者の実態調査アンケート 結果報告

【調査の動機：なぜコロナが終わっても炊き出しの人数が減らないの？】

- ・ 思いおこせば昔の炊き出しはよかった…みんなで和気あいあいとご飯を作り、200人くらいの利用者と熱々のご飯を食べました。楽しいひと時でした。
- ・ しかし、コロナ禍に。手づくりは諦めて、注文した弁当に切り替えました。利用者は増加の一途をたどり、500人に達しました。人数が増えるとトラブルも増えました。それでもコロナが終われば元に戻れると思って歯を食いしばって炊き出しをつづけました。
- ・ 2023 年 5 月、新型コロナが5類になりました。利用者が減と思っていたのですが全く逆で、利用者は増加の一途をたどっています。
- ・ なぜ利用者が減らないのか、どんな人が炊き出しを利用しているのか??それを解明するために利用者みなさんにアンケート調査を行いました。

日時	2024 年 3 月 23 日土 16:30 ~ 18:30
場所	東池袋中央公園
調査員	応募したボランティア 46 人
当日の炊き出し利用者	518 人
回答者	245 人
回答率	47%

【性別：男性が90% なぜ女性は少ない？】

・性別は男性が圧倒的です。女性はコロナ前より増えましたが、それでも10%に留まりました。他団体の支援でも女性が少ないことは共通しています。

＊連携団体の特定非営利活動法人トイミッケ・一般社団法人つくろい東京ファンドが運営する「せかいビバーク」（家を失った人が東京と近県の提携商店等に置かれた「緊急お助けパック」を受け取り支援につながる）でも男性が85%、女性が15%です。

・女性が困窮しないはずはないのですが、なぜ炊き出しに来られる人が少ないのか、はっきりとした理由はわかりません。考えられることとしては・・・

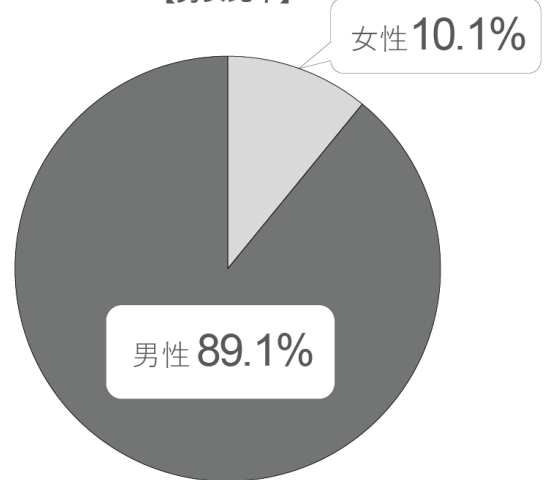
- 1, 男性が中心の炊き出しに女性は並びづらい。
- 2, 貧困女性は、性産業や家庭内に封じ込められて見えづらくなっている。

・女性限定の相談会には多くの女性が来られるそうなので、女性の支援は支援者も利用者も女性だけにするという視点が必要かもしれません。

・「それ以外」と答えた人はいませんでした。

性的マイノリティの方がいないとは思えないのですが、アンケート調査でカミングアウトする人もいないのでしょうか。

【男女比率】



【年代：男性は50代～70代が中心】

・男性は50代～70代の「おっちゃん」層が4分の3を占めていました。これは従来の路上生活者支援の炊き出しと同じです。

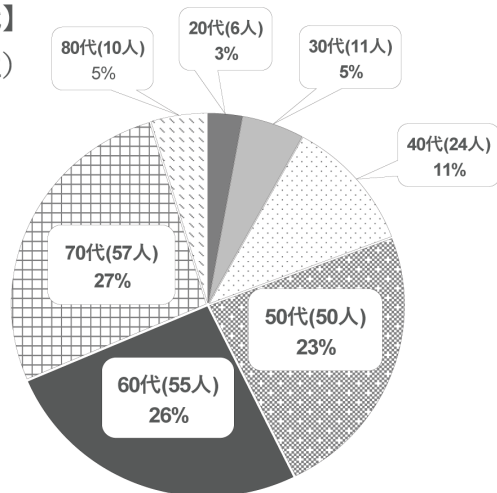
・土木建築などでバリバリ働いてきた人が歳を取って体力が衰え、けがや高血圧などの病気に悩まされて働けなくなり、生活保護を受けても受け取れるのは最低生活費。さらに「生活保護だけは受けたくない」と、生活保護水準以下で生活する人も多い。そこに物価高が追い打ちを掛けて、多くの人が困窮して炊き出しに並ぶのだろうと推測されます。

＊前述の「せかいビバーク」の利用者の年齢層は20・30・40代が約4分の1ずつ、50代以上が4分の1で炊き出しとは正反対になっています（2024年8月時点での直近144人）。不安定就労の若者は仕事が途切れた時だけ「せかいビバーク」で急場をしのぎ、中高年は炊き出しに並ぶという構造があるようです。

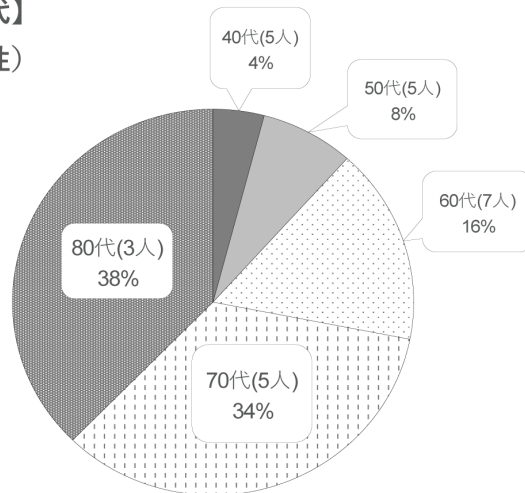
【年代：女性は40代～80代】

- ・女性は全員が 40 代～ 80 代でした。
- ・ときどき、若年層と見られる女性を見かけることもありますが、継続して並ぶ人は少ないです。

【年代】
(男性)



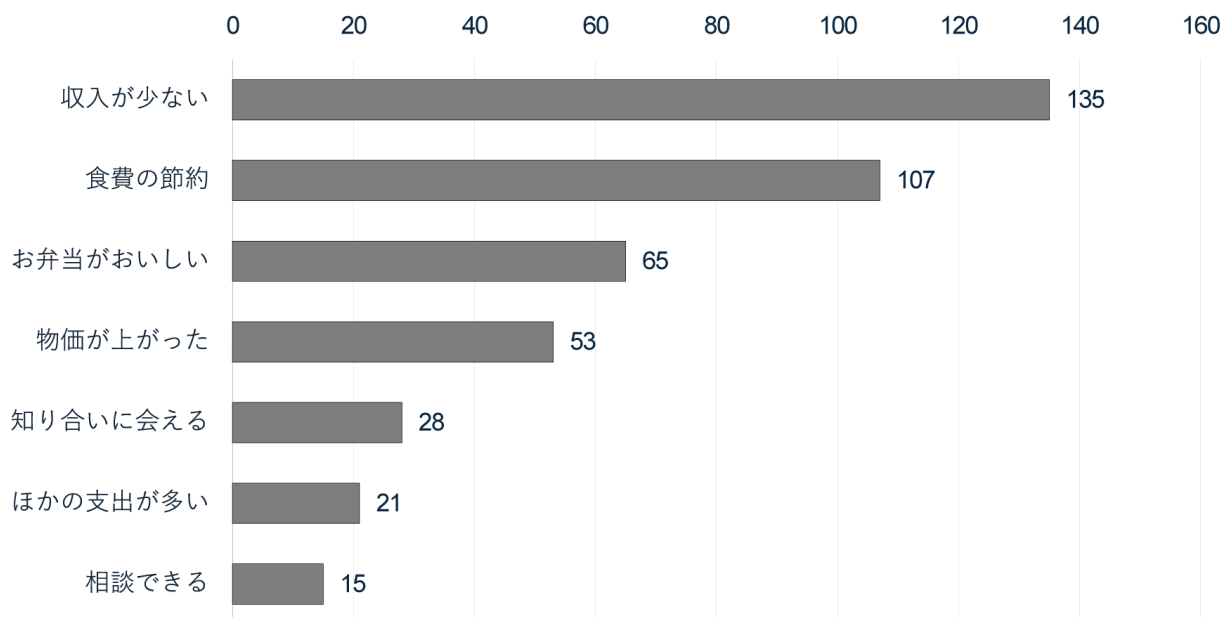
【年代】
(女性)



【炊き出しに来た理由は「収入が少ない」】

- ・複数回答ですが、ほとんどの人が「収入が少ない」・「食費の節約」など経済的理由を挙げました。
- ・「知り合いに会える」「お弁当がおいしい」「相談できる」ことも大事だと思いますが、これらの理由だけを答えた人は 10 人だけでした。ほとんどの利用者は経済的理由＝自分の生活を守るために炊き出しにいらしていることがわかります。

【炊き出しに来た理由】（複数回答可）



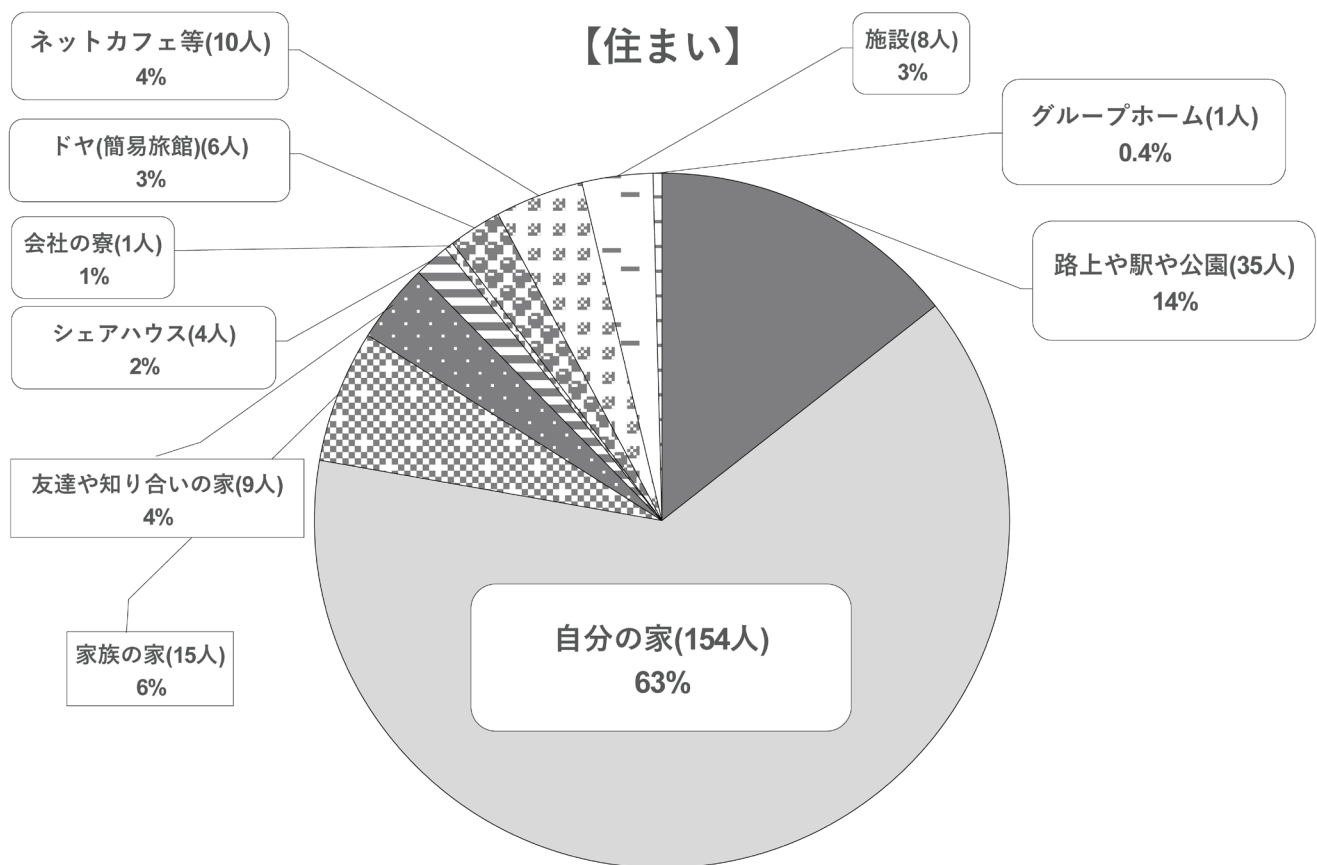
【住まい：70%は住まいがある人】

・70%は自分の家または家族の家に住んでいると回答しました。

・30%が路上生活・ネットカフェ生活・友達や知り合いの家に居候・シェアハウスなどの不安定居住状態と回答しました。

・家があるのになぜ炊き出しに、という疑問を持たれる方も多いと思いますが、家賃を払い、高騰する電気ガス代を払い、携帯代を払い、税金・社会保険料を払い（滞納している人も多いのですが）、残りを食費に充てようとしてもこの物価高となれば、余裕はなく、やむなく炊き出しに来たということでしょう。

これまで TENOHASI が支援してきた「路上生活者＝目に見える困窮者」だけでなく、見えにくい困窮者が炊き出しに来ていて、そこにどんな支援が必要かを考えていくことがこれからの課題になると思います。



【生活保護を受けている人が半数】

- ・生活保護については、現在受けていると答えた人が 48%・前に受けていた人が 13%・受けたことがない人が 39%でした。
- ・生活保護の利用者は、正直なところ、予想よりも少なかったです。
- ・生活保護を受けている理由を聞くと、年金が 6 万円（70 代男性）・障害があっても働けず家族の支援もない（50 代女性）・中卒で正規雇用につけずバイトと生活保護で生活している（50 代男性）など様々な答えがありました。
- ・生活保護を受けているのだから炊き出しを利用すべきでないと考える人もいらっしゃるでしょう。「路上生活のころは利用させてもらったけど生活保護を受けたからもう炊き出しには行かない」とおっしゃる当事者もいます。
- ・ただ、生活保護で支給されるのは「最低生活費」で、家賃以外の生活費に充てられるのは 7 万円台（東京）です。ある福祉事務所職員は「実際にその金額で生活してみたら、短期間なら我慢できるけれど、これがずっと続くと本当にきつい」とコメントしています。
- ・そこに追い打ちを掛ける物価高です。障害などから元々お金のやりくりが不得意な方も多く、少しでも食糧を確保して次の支給日まで保たせようと炊き出しに来られていると思われます。
- ・「保護を受けている人にいいように使われてる」という見方もありますが、炊き出しに「様々な人が来ないと、本当に困っている人も来られなくなる」と私たちは考えています。

【生活保護を受けていない人も困窮している】

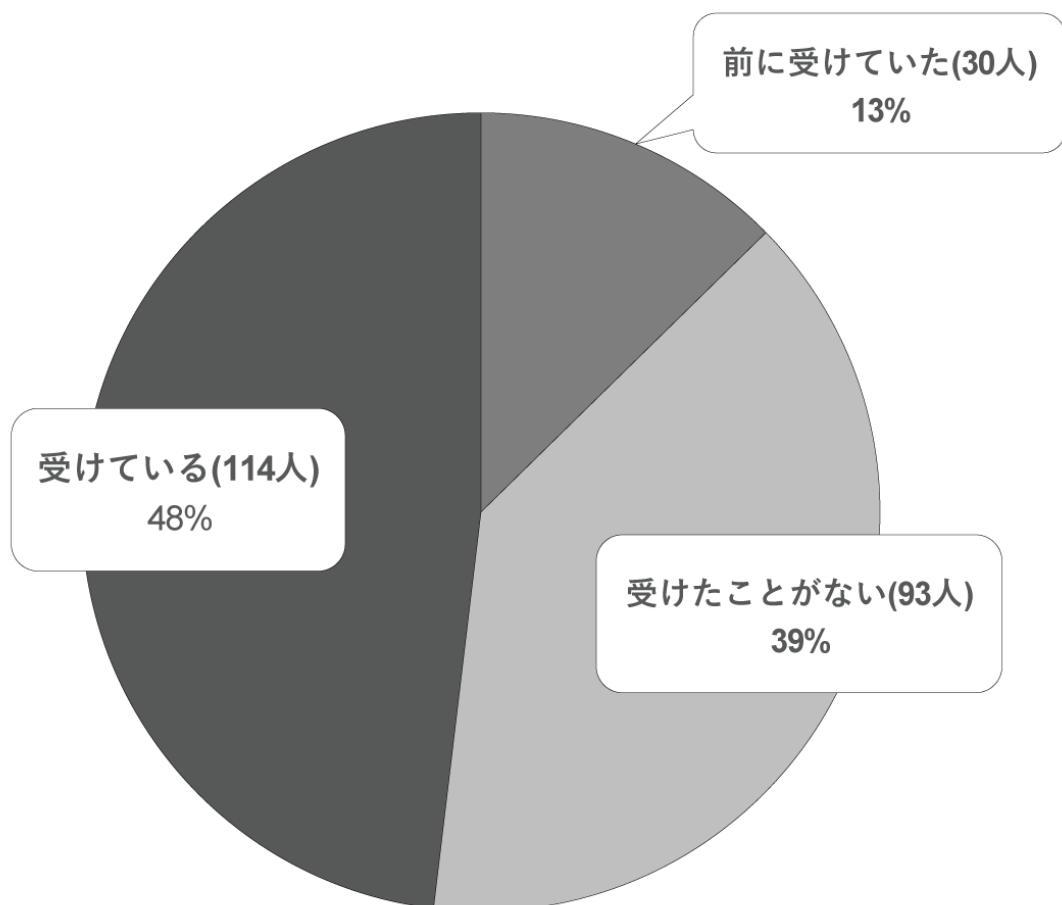
- ・生活保護を受けていない方のプロフィールは、低年金の 70 代女性・路上生活の 70 代男性・派遣社員の 60 代男性・求職中の 40 代男性・障害のある 40 代男性など様々。
- ・収入をきくと、約 60%の方が生活保護水準以下でした。本当は生活保護を受けられるけれど、受けずに「がまんしている」「がんばっちゃってる」人がかなりいると思われます。
- ・生活保護基準よりも収入が多いと答えた人は 13 人でした。
- ・最高は月 30 万円の建設業正社員（60 代男性）でしたが、困り事は「お金」「家族」「病気や身体」。「仕事が休みの日に他の炊き出しも利用している」と答えられており、家族や医療費で家計が苦しく、各地の炊き出しを回っていることが読み取れました。

【「以前受けたけれど今は受けていない人」が最も困窮している】

- ・「今は受けていない」と答えた 30 人は、不安定居住（路上・簡易旅館・ネカフェなど）の人が 63%で、他と比べて突出して多くなっていました。
- ・プロフィールを見ると「保護を受けていたけれど簡易旅館でのトラブルで宿を出てきたら失踪廃止にされた」（障害のある 40 代男性）、「月に 23000 円の年金だけで路上生活を続けている（80 代男性）」、「路上生活しながら日雇いなどの仕事で月収 45000 円」（40 代男性）など、明らかに生活保護が必要な方が中心でした。

- ・本来、生活保護を「廃止」されるのは、仕事を始めたり年金をもらえるようになって生活保護に頼る必要がなくなったから、というのがあるべき姿です。
- ・しかし実際には、現在の制度に適応できなかったりはじき出されたりして生活保護から離れた方は多くいらっしゃいます。TENOHASI の生活相談に来られる方も過半数は生活保護を受けたことのある方です。
- ・廃止になった理由で一番多いのは失踪です。福祉事務所から紹介された宿泊先が劣悪でいやになった、福祉事務所の冷たい対応ががまんできなかったなどの訴えはしばしば聞きます。
- ・その背景には、対人関係が苦手でトラブルが起きると自分から失踪するのが自分を守る唯一の方法になっていたり、お金のやりくりが苦手で家賃を滞納してしまったり、依存症で生活がうまく営めなかったりなど、障害や疾患と生きづらさが背景にある方が少なくありません。
- ・生活保護は最後のセーフティネットですから、どんな困難を抱えた方でもすくい取れる制度になっていなければ生存権は砂上の楼閣になります。これからも運用の改善が必要です。
- ・そしてなによりも福祉事務所が今よりもっと優しく親切な職員がたくさんいるところになること。職員の中にはすばらしい方もいらっしゃるのですが、多数派とは言えません。マンガ「健康で文化的な最低限度の生活」の主人公のように、まっすぐに利用者と向き合うような方がもっともっと増えますように。

【生活保護の利用状況】



【 かなり広い地域から集まっている 】

・住んでいる（寝泊まりしている）地域を聞いたところ、豊島区と隣接する4つの区で 64%でした。豊島区が一番多く 27%、ついで新宿区 16%・板橋区 10%・練馬区 8%・中野区 3%でした。

・それ以外の 23 区は台東区 11 人・足立区 9 人・墨田区 7 人・渋谷区 5 人など。また千葉県 4 人・多摩地区 3 人・埼玉県 2 人などさらに遠距離から来ている方もいらっしゃいました。

・「川口から歩いてきているのでお弁当配布が 18 時で締め切られるのが辛い」（埼玉・40 代・路上生活）、「障害年金をもらいながら認知症の母の介護をしている」（千葉・40 代・自宅）など、それぞれ切実な動機を抱えた人が遠方から来られているようです。

【 他の炊き出しも利用している 】

・他の団体の炊き出しなどを利用されているかという質問に対して「よく利用している」35%、「ときどき利用している」39%で、多くの方が他の炊き出しや食糧配布も利用して生活を守っていらっしゃいました。

【 利用者は常に入れ替わっている 】

・初めて炊き出しに来た時期を聞いたところ①コロナ前（2019 年以前）34%、②コロナ禍中（2020～2023 年 4 月）33%、③コロナが 5 類になってから（2023 年 5 月～2024 年 3 月）33%で、ほぼ 3 分の 1 ずつでした。

・ちなみに今日が初めてという人が 7 人もいらっしゃいました。

・2023 年 5 月にコロナが 5 類になった以降に来られた人がこれほど多いとは予想していませんでした。特に 20 代は全員 5 類になってからでした。

・コロナが 5 類になってから来た人が 3 分の 1 を占めると言っても、全体の人数はさほど増えていないので、来なくなった人が同じくらい居るはず。利用する人は常に入れ替わっているといえるでしょう。

・どんなときに来ていますか、という質問に対して「仕事の関係で池袋に近い時に立ち寄っている（50 代男性）」「腰が弱く軽作業（検品）をしているため時給が悪く、生活が苦しくなったときに来る（50 代男性）」など、近くまで来たときや、特に困ったときだけ利用する人もいらっしゃる。

しゃいます。

・ 次の給料・年金・保護費が入るまで一時的に食費がなくて炊き出しに来たというスポット的な利用者は生活がうまく回るようになれば来なくなるでしょう。

・ 毎回来ていた人も、仕事が見つかった、元気になって生活を立て直した、生活保護を受けたなど積極的な理由で来なくなることもあれば、病気や他の利用者とのトラブルで来られなくなったなどネガティブな理由で来なくなった人もいるだろうと思われます。

【まとめ】

・ 炊き出しの利用者が減らないのは、生活の困難や生きづらさを抱えた方が必死に生活を守ろうとして、近郷近在からも遠くからも集まっているからでした。

・ それらの方は、炊き出しが必要なくなれば来なくなるけれど、もっと多くの人が新たに来られているから並ぶ人が減らないということがわかりました。その意味では自助と共助のマッチングと言えるでしょう。さて公助はこの状況を受けて支援をパワーアップしてくれるのでしょうか。

細かいデータなどはこちらをご覧ください→



発表資料 炊き出し利用者アンケート

清野賢司

相談員田中のとある一週間

【公園での食材配布にて】

関西から逃げてきて、東京で生活保護申請した若者が相談したいこともあるし…と顔を見せにきてくれました。無料定額宿泊施設に一旦入ったものの、テノハシのシェルターに入りたいと空き待ち。携帯がないのにまめに連絡をくれます。どうぞと差し入れてくれたのは缶コーヒー。無料低額宿泊施設の利用料は高く手元に残るお金はわずかです。交通費をかけて会いにくるのも簡単ではない中差し入れをする気持ちというのはなんだろう…、路上で知り合ったお年寄りに寄り添うようにしていた様子を思い出しながら、これまでの生き立ちと苦勞、どこか確かなところに縋りたいような気持ちが透けて見えるような気がします。

【夜回り】

来る日も来る日も駅構内で過ごしている高齢（と思われる）男性は頑固。夜回りのおにぎりやパンを受け取ったことはない。マスクはたまに受け取ってくれる程度。駅構内は親切な方もいて立派なお弁当や衣類を置いていってくれる方もあるらしく、お腹は間に合うのかノーサンクス。足腰が弱っており負担となる余計な荷物は持たない。ともかく公的サービスなど余計なお世話だと路上で粘る。

昨年の酷暑の時期、蒸してうだるような暑さの駅地下でみるみる衰弱してしまった。夜回りの駅構内ボランティアスタッフはとても心配した。公的サービスも医療機関も絶対お断り、宿泊支援をするからホテルで休んでみませんかと宥め勧めてみても嫌だという。せめて冷たい飲み物とか差し入れましょうかと尋ねると、なんとビックリ、頼みたいとおっしゃる。頼まれたのは冷たいペットボトル、凍ったゼリー飲料いくつか。連日届け見守った。さあ、これを機会に次のステップへ…などと邪な淡い期待は儚く、元氣も頑固パワーも復歸した。



よちよち歩きである。寝床にする段ボールを数十メートル運ぶのもやっとなのを見かねて運搬を申し出ても、これが自分でできなくなったら終わりだという。段ボール選び一つにしても、自分が運び片付けることを考慮し、必要とする最低限度の大きさの段ボールというのがあり、余計な口出しは無用。ゲットした段ボールの隠し場所といい、路上生活というミニマム生活は経験と知恵がギュウギュウに詰まっている。別の路上生活のおじさまがちょいちょいと手招き、あの人は足がパンパンに浮腫んで大変なことになって

るから見てやってくれという。見に行くと確かに酷い。歩くこともままならない。やはり病院はノーサンクス。炊き出しの無料の医療相談で見てもらえるといいと思うけれど…と切り出すと表情は拒否していない。しかしとてもとても炊き出しの公園までは歩けない。タクシーを使うにしても駅構内から外へ出るのも辛くて無理だと。ではこの場所にテノハシと連携している医師や看護師が様子を見に来るのはどうかと尋ねると、まんざらでもない。死んでもいいんだ！と強がっていてもほんとの本音は心細い様子も少々。たぶん。

ほしぞら医療班、ゆうりんクリニックの力を借り、連日の見守り再開。次週の夜回りには医師が来る予定。路上へアウトリーチしてくれる医療機関があるというのはありがたいことです。皆さん遅しくてもやはり路上生活による心身へのダメージを徐々に重ねていることは確か。大きな不調を機会に安定した生活に入る例は事欠きません。

田中 のり子

当事者インタビュー ～ロサンゼルスから TENOHASI のシェルターへ～



TENOHASI のシェルターにて

今回は、昨年 11 月にアメリカから帰国され TENOHASI のシェルターに入られた K さんにお話を伺いました。

ロサンゼルス支援団体から、日本の困窮者問題研究者に連絡が来て、そのつながりで TENOHASI に帰国後の受け入れについて問い合わせがありました。それがきっかけでリモートでのやり取りも含め、検討して TENOHASI のシェルターにて受け入れることになった方です。

▷ 渡米まで

ー K さんは新宿区ご出身でしたね。まず、アメリカに渡るまでの話を伺っていいですか？

小中は公立の学校に通っていましたが、高校は私立の女子高に進み、もともと野球が好きだったのでソフトボール部に所属してセカンドを守っていました。プロ野球では広島カープのファンでした。高校野球も好きで、スコアつけまでして TV 中継を観ていました。

ーカープ女子っていうのが一時はやってました（笑い）。その後は？

大学は家政科で服飾を学び、3 年の夏休みにカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）に観光もかねて 1 ヶ月間語学留学しました。4 年の夏には友人とアメリカに旅行し、ロス在住の叔母と会ったりもしました。この時のカルチャーショックによりアメリカへの思いが湧き出しました。

卒業後は有名デザイナーのオフィスに勤めたんですが、2、3 年後に青山のファッションモデルの事務所に転職し、そこから独立した先輩の誘いでさらに転職し、ファッション雑誌やショー、テレビの CM の斡旋などをしてました。でも、5 年目くらいからアメリカに行きたい気持ちがさらに募ってきて、仕事を辞めて、半年くらいの準備期間を経てアメリカに渡りました。

▷ アメリカでの暮らし

—そのまま、アメリカに滞在されたんですか？

最初は観光ビザだったので 3 か月後に一旦日本に戻り、お金をためて、半年後にまたアメリカに渡りました。

—それからはずっとアメリカでの生活ですね。



義母の所にいたので家賃はかからなかったんですが、ビザの関係で働ける場所が限られていたので、日本食のレストランで働いていました。このレストランはアメリカで最初の回転ずしのお店だったんだと何度もオーナーに聞かされました。

—そしてご家族も増え…

義母の家で夫と暮らしているうちに長男、長女が生まれました。その後、義母が家を売り日系人のための高齢者住宅に移ったので、私たち家族も近くのアパートで暮らすようになり、そこで、次女が生まれました。その頃から生活が大変になっていき、夫は生活を支えるために働き、寝るために帰ってくるような状態でした。私も働くことも考えたんですが、子どもを預けることを考えるとお金もかかるし、安全にも不安があったので、私は子どもにつきっきりでした。

— 24 時間子どもという生活って言うのも

きついですよね？

そのうち、アメリカ社会のことをよくわかっていなかったんですかね、トラブルで夫が会社を辞めることになり、家賃も払えなくなってしまいました。義母の家（高齢者住宅）に泊めてもらったり、モーテルを転々としたりで、子どもたちが学校に行けなくなったこともありました。

そうこうしているうちに、夫が出ていき、義母が亡くなった後は母子 4 人のアパート生活になり、家賃を払うために以前のレストランで仕事を再開しました。50 代になっていました。

▷ アメリカの高齢者住宅

一個人的な興味なんですけど、義理のお母さんが住んでいらした高齢者住宅のことを教えてもらってもいいですか。

抽選なんですけれども、アメリカ国籍を持つ日系人向けの公的住宅で、政府が管理していて年金生活者でも支払いが可能な家賃に設定されていました。最初は年金の 20% 以下の家賃でした。250 ドルくらいでしたか…。間取りは日本でいう 1LDK で、義母は一部屋使っていて、リビングに私たち親子が寝ていました。本当はいけないのだけれど、大目に見てもらっていたのかもしれませんが。主として日系人対象でしたが、中国人や韓国人も住んでいました。

—日本の公的な高齢者住宅では考えられないですね！

▷ お子さんたちのこと

— 3 人のお子さんたちのことを伺ってもいいですか？

義母が亡くなったとき長男が 16 歳、長女が

14 歳、次女が 12 歳でした。学齡の時期に学校に行けなかったこともあって各町にあるシティカレッジ（日本の短大にあたる？）で卒業資格を取った子もいます。それぞれ自分でやりたいことを調べて大学に進んだ子もいます。

長男は卒業後、人間関係が苦手なこともあって、コンピューター関係の仕事を立ち上げフリーランスで働いています。

長女はバークレイの大学からボストンの大学に編入し、ボストン大学で資格を取って家を出て翻訳の仕事をしています。学生時代日本との交換留学に申し込んだこともあったのですが通らず、今回、私の誕生日と一緒に祝ってくれるために初めて来日しました（拍手）。

次女は対人関係の仕事はつらいと、好きな動物を世話する仕事をしています。家でも猫を飼っていましたが、みんな次女が拾ってきた仔たちでした。

▷ K さんの転機

一怪我をされて働けなくなったそうですが…

私は、先ほどの日本食レストランで働いたり、ベビーシッターと高齢者の世話をしたりしていたのですが、2023 年の 5 月に怪我をしてしまって仕事ができなくなってしまったんです。たまたま駐車場の段差を踏み外し、その先に停まっていた車のボンネットに左肩を強くぶつけ、脱臼のような状態になってしまって、やっと半年後くらいにベビーシッターの仕事を再開しました。

一肩が痛いのに小さいお子さんの世話は大変じゃなかったですか？

アメリカでは子どもが 12 歳になるまでは一人で家に置いておいてはいけないんです。学

校の送り迎えも必要なので、赤ちゃんの世話というわけではなかったんですが、だんだん生活が厳しくなり、子どものヘルプもありました。子どもたちも大変だったし、家賃を払えなくなりアパートを出ることになってしまったんです。その 1 週間前に（支援団体の）リトルトーキョーサービスセンターに相談に行き、シェルターの見学もしましたが、アメリカは市民権を持っている人や小さい子どもがいる人が優先なので入居は 1 ヶ月～2 ヶ月後と言われてしまって…。それまで帰国するかどうか気持ちは半々だったのですが、帰国することに決め、教会の方をお願いして帰国するまで泊めててもらいました。

▷ 120 歳まで生きる… クリスチャンとしての信仰

一ここまでご苦労されてきた中で、私は、信仰が K さんの支えになってきたということも大きいと感じているのですが…

そうですね。私が通っていた教会はダヴァール神の国というんですが、義母が亡くなる前後に、働いていたレストランで出会った方に誘われて行くようになりました。最初はあまり乗り気ではなかったんですが、義母の容態が悪くなり病院を出たり入ったりするようになって、そこで聖書を学び、義母が亡くなってからも、牧師先生や特に牧師先生の奥さんが困ったときに相談に乗ってくれたし、信者さんにもいろいろ助けてもらいました。

一以前 120 歳まで生きるとおっしゃっていたことも信仰に関わっているんですね？

聖書の創世記にあるんですが、人間がだんだん悪くなって、神様が人間を作ったことを悔やみ洪水を起こしてノアの家族と動物を

救った、いわゆるノアの箱舟の事件の前に、それまで寿命が決められていなかったのですが、（もともと神様は人を永遠に生きるように創造された）人間の寿命を 120 歳と決められたので、私も 120 歳まで生きよう、60 歳になったときはここから折り返しだと思ふようになりました。※ここで聖書を読んでくださった。

今は、ダヴァール神の国教会の支部が横浜にあるので、今の生活が落ち着いたらいつか行ってみたいと思っています。

▷ 日本での暮らし

一最後に日本での暮らしについてお伺いします。私の感想として、ものすごく早く日本の暮らしに慣れたというのがあります。

30 年以上日本から離れていたもので、日本はどれだけ変わっているんだろう、日本に帰ったら浦島太郎だなと思っていたんですが、自分でもこんなに早く慣れるとは思っていませんでした。帰国後、生活保護の申請で共同生活の施設に入っていたら、ここまで順応しなかったと思います。ここ（シェルター）に直ぐ入れたのが一番、でここで自由に動けたので、それがよかったと思います。空港まで K さんが迎えに来てくれて案内してくれて、自分の足で電車に乗って動いたのがよかったですし、帰国後すぐホテルに泊まれたのもありがたかったです。TENOHASI さんに出会っていなかったら今の私はなく、どう生活していたかわかりません。生活していく上での支えがあり、心から感謝しています。

一お金の問題ですが、アメリカと日本では貨幣価値も物価も違う中で、工夫して遣っていらっしゃいますね？

アメリカでの生活も大変で、コーヒー 1 杯飲むのも躊躇するような状態で、計算しながらお金を遣っていましたから、そういうのもあるかなと思って。いつも子ども第一で、家賃払って食べていくのが精一杯でしたね。

一あとは怪我をした肩の手術ですね？

クリニックでは酷いことになっているが、人工関節にすれば手が上がるようになるし、痛みもなくなると言われました。今は手が上がらなくて服の脱ぎ着にも不便だし、このままでは仕事にも就けないので手術することにしました。検査、手術、リハビリと時間がかかりそうですが。

私はクリスチャンなので、すべてのことを通して神様の栄光が現されることを信じています。

一 K さん、貴重な経験をありがとうございました。日米の違いなどもいろいろ伺え、勉強になりました。お体を治し、早くアパート暮らしができるよう祈っています。

11 月 27 日 高橋秀子 記

付記：先日ロサンジェルス支援団体の方が来日され、シェルターで再会されました。

— 会計報告 —

2023 年度の会計はかろうじて黒字となりました。

収入は約 3930 万円でした。収入の 92%は個人からの寄付です。みなさま本当にありがとうございました。

TENOHASI への寄付は 2021 年・2020 年が約 5000 万円で最も多く、これはコロナ禍でテレビ・新聞に盛んに取り上げられた影響でしょう。2022 年はコロナが次第に収束してマスコミに取り上げられる回数も減って約 3360 万円となりましたが、2023 年は盛り返して約 3930 万円となりました。ただ、これはお一人から 1000 万円の遺贈（遺言による寄付）を頂けたのが大きく、これがなければ大赤字になったところです。

支出は約 3850 万円でした。炊き出しに並ばれる人数が増えたのでお弁当代が増え、生活相談者の数も増えているので相談員を増やしたことなどからいままでで最高額となりました。

2024 年はまだ途中ですが収入はかなり厳しいです。

支出は、世界の医療団のハイエースを引き取ったこと、事務所家賃が増えたこと、夜回りのパン作りの経費が増えたことなどからさらに額が増えます。

2024 年度はかつてない赤字となりそうです。

まだ預金が 7000 万円あるのですぐに活動停止とはなりません、みなさまどうぞご支援をお願いします。

本来は前号で報告すべきところでしたが、間に合いませんでした m(_)_m

2023年度 会計報告			
前 期 繰 越			72,184,790
収入	正会員会費		15,600
	寄付金		36,556,054
	助成金		2,650,000
	利息他雑収益		91,397
	収入合計		39,313,051
支出	事業人件費	支援員人件費等	10,938,514
	食料品費	炊き出し・夜回り食材費等	8,445,289
	地代家賃	シェルター家賃等	4,358,220
	消耗品費		1,927,435
	宿泊支援費	当事者宿泊費等	1,200,204
	車両費	トラック経費等	1,191,968
	事務用品費		518,562
	印刷費	チラシ印刷費等	455,420
	旅費交通費		299,355
	通信費		250,653
	会議・会場費		110,801
	事業雑費		12,818
	事業費合計		29,709,239
	事務費管理費	会報誌・通信費・手数料 管理人件費等	8,793,562
	総計		38,502,801
単年度差し引き合計			810,250
次 期 繰 越			72,995,040

新規会社設立の経緯

「路上生活状態からアパート生活への戸惑いをなくしたい」そう思い、住まいの悩み相談や住まい探しのサポートを行う会社を設立する事にしました。

路上生活の方がアパート生活を望まれる時、当然部屋を探す必要があります。しかし本人が望んでいても、その過程で様々な障壁にぶつかり途中で断念してしまうケースを当事者の隣で経験し、その都度、私自身が無力さを感じてきました。住まい探しと、継続的に地域定着出来る暮らしのお手伝いを心がけていきます。

・何に戸惑うのか、何が障壁なのか

— 生活保護を申請したけれど共同生活の選択肢が少なく、人間関係が原因で飛び出してしまった。そこで一つ傷付き、場所を変え再びチャレンジする。繰り返すうちにやる前から結果が分かっているからとチャレンジ出来なくなってしまった。

— 借金がある、過去に家賃を滞納していた、大家さんと揉めて出たことがある等の理由で「自分はどうせ審査に落ちるだろう」と思っている。

— 1人暮らしを始めたとして、決まった日にちに家賃や公共料金を払っていける自信が無い。ゴミ出しのルール、騒音トラブルなど気にする事が多くていやだ。路上生活やネットカフェの方が気楽に過ごせる。

— 過去に一人で不動産屋に行った際、「生活保護はお断り」「仕事してないなら無理」などと断られ部屋探しをやめてしまった。聞かれたくないトラウマ的な背景の話を根掘り葉掘りされイヤになってしまった。

挙げたものはほんの一部ですが、アパート転宅に至らない理由はたくさんあります。地価高騰の煽りもあり、生活保護の住宅扶助基準額内で探すと条件の良い部屋が見つからないのも事実です。

・アパート転宅は本当に必要か、どの立ち位置か

そもそもアパート転宅は必要な事なのでしょう。アパートでの生活はゴールではなくスタートだと思っています。そこで必要な支援やケアを受けながら安心できる生活を送るため、より良いスタートを切る必要があります。アパートでの一人暮らしという決まった形でなくとも構いません。アパート暮らしを望んでいない方も一定数いらっしゃいます。一人一人が安心できる住まいの形があればいいと思います。

・大家さんにお伝えしたいこと

生活保護を受給されている事は、入居を避ける事由ではないと考えます。たしかに、家賃が支払われるか心配だと貸主から声を聞く事もあります。しかし、法改正により2024年から、家賃にあたる住宅扶助費は福祉事務所による代理納付が適用されます。原則、本人の経済状況に関わらず家賃が振り込まれることになります。そして地域の支援団体や医療機関による継続的なサポートにより、地域に馴染んだ生活をされる方が多くいます。生活保護や福祉サービスに繋がっている方への見方を変えるのも使命だと思っています。

・最後に

私が TENOHASI と関わった最初のきっかけは、池袋という街の美化と同時に路上生活者の姿が見えなくなった事でした。多くの方と会う事が出来るようになったいま、安心できる住まいを手に入れるための活動にもより一層力を注いで参ります。

株式会社オノカ 大野力



スペシャルサンクス ～皆様に感謝を込めて～



TENOHASIの連携団体

・東京路上鍼灸チームTrust

(鍼灸班)

・ほっと友の会(お茶会)

・つくろい東京ファンド

・ゆうりんクリニック

・訪問看護ステーションフローカ

・就労継続支援BASE

・ほしぞら医療班

・Habitat for Humanit

y

・世界の医療団

・ハウジングファースト調査研究班

・2024年度に参加してくださった

数千人のボランティアのみなさん

・2024年度に寄付してくださった

数千～数万人の支援者のみなさん

駒込大観音光源寺／つるや

庚申塚店／いけぶくろ茜の

里／としまNPO推進協議

会／豊島子どもWAKUWA

KUネットワーク／豊島区地

域活動交流センター運営協

議会／東京パブリック弁護士

事務所／ホームレス総合相談

ネットワーク／反貧困ネット

ワーク／自立生活サポートセ

ンターもやい／Collabo

／サンカクシャ／わたカフェ

／豊島区役所／練馬区役所

／板橋区役所／自由学園つ

なげる輪／東京第一友の会

／練馬区職員労働組合／パ

ルシステム／山友会／あじい

る／トイミッケ／豊島区民社

会福祉協議会／立正佼成会

豊島教会／毎日新聞東京社

会事業団／順天堂大学医学

部武田ゼミ／ビッグイシュー

基金／

東京・生活者ネットワーク

／サマリア／ホームレス支

援全国ネットワーク／公的

扶助研究会／釜ヶ崎支援

機構／寿支援者交流会／

レーベンエステート／鍵屋

不動産／練馬ハウジング／

LC・ファースト／JAM

MIN／青年劇場／劇団銅

鑼／アーリンク／目白が

丘教会／東洋大学社会福

祉フィールド活動支援室／

ありがとうブック／KEE

N／Chrome／フィデリ

ティ投信／やきとりキング

／ごきげんファーム／大塚

モスク(マスジド大塚)／

リトル東京サービスセン

ター(LTSC)

*順不同・敬称略

パン：池袋あさやけベー

カリーとピアメンバー



居場所を失った人への
緊急活動応援助成

私達の活動は、共同募金の
助成を受けて実施しています。

やるならウンコで

ある日の午後、元シェルター利用者で今は生活保護を利用しながらアパートに住んでいる大黒さん（50代男性・仮名）から怒りの電話。

大黒さん「清野さん、頭来たよ、あのケースワーカー。ぶっ殺してやりてえ」

清野「ああ、あの件ね。ダメだったの？」

大黒「全然ダメ。ものすごく冷たい態度で。係長も出てきたけど話になんない。あいつらなめくさって。」

清野「そうですか・・・（ケースワーカーの言ったことは法的には間違っていないけど・・・）その態度はダメですよ」

大黒「そうなんだよ。もうこんなところ居られない。全員ぶっ殺してやる」

清野「全員ぶっ殺すのはいいけど、どうやってやるの？」

大黒「包丁で全員ぶっ刺してやる。俺はやるときはやるよ」

清野「いやいや、包丁じゃあ無理でしょう。1人か2人やったところで取り押さえられちゃう。うーん・・・爆弾はどう？全員やつつけられるから」

大黒「あ、それでいいよ。清野さん、爆弾もってきて」

清野「俺が持ってるわけじゃないじゃん。自分で用意してよ」

大黒「俺だって持ってないよ」

清野「amazonでも売ってないしなあ…大黒さんがいつもいってるコンビニなら売ってる？」

大黒「ねえよ（ちょっと笑い）」

清野「わかった。じゃあ、ウンコにしよう。ウンコをビニールに詰めて投げるの。昔、成田空港反対闘争の時に農民が機動隊に投げたやつ。これならタダだし、罪も軽いし、

役所のダメージがでかい。うんうん、投げるならウンコにしよう」

大黒「なんだよ、ウンコって（笑）」

清野「よし、これで決まりね。大黒さん、今日から毎日ウンコしたら流さずに冷蔵庫に入れといて」

大黒「やだよ。清野さんがやってよ」

清野「しょうがねえなあ。ウンコも溜められねえのかよ。わかったよ。福祉事務所にウンコまみれになるくらい溜まったらクール便で送るから、待っててね」

大黒「ガッハッハ。清野さんにはまいったなア。ウンコ送ってこないで下さいよ（笑）」
実話です。



1月24日炊き出し。あるスタッフから「清野さんを探すの面倒だからこれ被ってて」と言われて毎回被っています。色はレインボー。後ろではコスプレフェス。利用者からは「清野さん最高」と言われます。
清野賢司

【クレジットカードからのご寄付】

1000 円からご寄付いただけます。クレジットカード決済には「VISA」、
「MasterCard」、「JCB」、「American Express」、
「ダイナースクラブ」をご利用いただけます。

<https://www.tenohasi.or.jp/donation/creditcard/>

ロボットペイメント株式会社が提供するクレジットカード決済サービス
「サブスクペイ」を採用しています。決済情報は SSL で暗号化され、安全
に管理されます。また当法人はクレジットカード情報を保有しません。



【ゆうちょ銀行 払込取扱票からのご寄付】

同封した払込取扱票からご寄付いただくことができます。郵便局でお手続きください。

口座記号番号：00190-8-259686

口座名：特定非営利活動法人 TENOHASI

【ゆうちょ銀行からのお振込によるご寄付】

記号番号：00190-8-259686

口座名：特定非営利活動法人 TENOHASI

※ご依頼人名にふりがなをお書きいただけると大変ありがたいです。

【他の金融機関からのお振込によるご寄付】

金融機関コード：9900

店番：019

口座種別：当座

口座番号：0259686

口座名：特定非営利活動法人 TENOHASI

お問い合わせ（担当：小野田）

資金や物資のご寄付に関するお問い合わせは当法人ウェブサイト上のお問い合わせフォーム、
または電話（03-6824-5538）にてご連絡ください。

お問い合わせフォーム：<https://www.tenohasi.or.jp/contact/>

＼アパートを募集しています／

路上生活から抜け出してアパートを借りようとしても、生活保護受給者や路上生活経験者、
また障がいのある方々は、不動産業者から契約を拒否されることが少なくありません。悪質
な業者にだまされたり、運よくアパートに入居できても孤独に耐えられず路上に戻ってしま
うケースもしばしばあるのです。そこで TENOHASI では不動産業者を通さず、大家さんと
入居者が直接契約で賃借できる物件を求めています。現在、豊島区・練馬区・板橋区・中
野区・北区・文京区（その他自治体でもご相談ください）内で探しています。この直接契
約でお借りしている物件は現在 9 件です。

入居後も定期的な訪問や生活支援、入居者と入居者に関するオーナー様からのご相談を
行います。

まずはご連絡ください。お待ちしております。

お問い合わせ

E-mail：info@tenohasi.or.jp

TEL：03-6824-5538

【ご支援のお願い】

コロナ禍以降、当法人の事業活動はニーズ増大に伴い、拡大し続けています。既存事業の拡大に加え、この数年で新たな事業も生まれました。こうした経緯からこれまでに寄せいただいた資金も数年のうちに枯渇してしまいます。いくつかご支援の方法をご用意しています。ご都合の良い方法で、かつご無理のない範囲で、ご支援いただけますと幸いです。

○食料品のご寄贈をお願いします

ご家庭や事業所などで余っている保存のきく食料品がありましたら当法人への寄付をご検討ください。

【食料品の送り先】

171-0043 東京都豊島区要町 1 丁目 28-20 マカロニ

特定非営利活動法人 TENOHASI

03-6824-5538

宅配ボックスをご用意していますので、曜日、時間をご指定いただく必要はありません。

量が多い場合はご相談ください。

○衣類が足りません

毎月第 1 土曜日に実施している衣類配布ですが、配布する衣類、カバン、靴が足りていません。80 人ほどの利用でしたが、現在は 140 人を超える方が衣類の受け取りにいらしています。

ご家庭や事業所などで余っている衣類、カバン、靴をぜひご提供ください。

なお、衣類は季節に合った男性物のみ募集しています。これからは春夏物をお願いします。

●薄手のジャンパー・セーター ●パーカー ●Tシャツ ●ポロシャツ ●シャツ

●カーディガン ※ L から LL が需要高

●ズボン ●靴下、下着（未使用のものに限る） ●ベルト ●靴

●リュックサック（容量の大きなもの） ●キャリーバッグ（キャスターが劣化していないもの）

●ショルダーバッグ ●ポーチ ●タオル・バスタオル（きれいなもの、または新品）

【物資の送り先】

113-0001 東京都文京区白山 1 丁目 30-5 大野方 1 階

03-6824-5538

宅配ボックスをご用意していますので、曜日、時間をご指定いただく必要はありません。

○引き続き活動資金のご寄付もお願いします

TENOHASI は常勤 2 名、非常勤 3 名体制で日々の生活支援、相談活動を担っています。

支援に必要不可欠なソーシャルワーカーを雇用し続けるためには年間およそ 1500 万円の

人件費を必要とします。また炊き出しには年間およそ 1000 万、シェルターには年間 300 万

の維持費が必要です。お寄せいただいた寄付金を大切にに使わせていただいています、

その他経費合わせて年間 3600 万の資金が必要です。どうぞ引き続きご無理のない範囲で

ご支援いただけますと幸いです。

TENOHASI の活動

- 炊き出し&医療生活相談&鍼灸 毎月第2/ 第4土曜日 東池袋中央公園
- 衣類配布 毎月第1土曜日 東池袋中央公園
- おにぎりと夜回り 毎週水曜日 池袋駅前公園～池袋駅とその周辺
- ハウジングファースト東京プロジェクト

お問い合わせ

メール：TENOHASI ホームページの「お問い合わせ」から

電 話：03-6824-5538（事務局）平日 10:00 ～ 17:00

特定非営利活動法人TENOHASI

会報第 46 号 2025/ 3/ 23 発行

□ HP <https://www.tenohasi.or.jp/>

□ facebook <https://www.facebook.com/tenohasi/>

□ twitter <https://www.twitter.com/tenohasi/>

炊き出し（毎月第 2・第 4 土曜日）ボランティアを募集しています。

炊き出し実施日の 13 日前の日曜正午から申込フォームより受け付けています。

「できるかも？やってみたい」と思われた方、まずはご応募ください。

一度ご参加いただき、「これなら続けられそう。次回以降もまた参加したい」

とっていただけることを願っています。詳しくは

「てのはし 炊き出しボランティア」と検索、または以下 URL をご覧ください。

<https://www.tenohasi.or.jp/join-us/>



発送元

〒171-0043

豊島区要町1-28-20 マカロニ

特定非営利活動法人TENOHASI TEL 03-6824-5538

会報誌のweb版をホームページにアップしています。

＊個人情報保護のためweb版では「ご寄付御礼」ページは削除しています。

「紙の会報誌は不要」という方は、お手数ですが上の「お問い合わせ」から

ご連絡ください。

印刷 アビーム（社会福祉法人復生あせび会）